

令和7年度
学校関係者評価報告書

学校法人 江楠学園 佐賀工業専門学校

1. 学校関係者評価の目的

学校法人江楠学園佐賀工業専門学校における学校関係者評価は平成19年に学校教育法及び学校教育法施行規則の改正により、自己評価、学校関係者評価の実施・公表、評価結果の設置者への報告に関する規程が新たに設けられたことを受け「専修学校における学校評価ガイドライン」に沿って以下のことを目的として実施する。

- ① 自己点検評価の結果について、学校外の関係者による評価を行い、自己点検評価結果の客観性・透明性と併せて信頼度を高める。
- ② 学生・卒業生、関係業界、中学校・高等学校、保護者・地域住民、所轄官庁・自治体の関係部局など、専修学校と密接に関係する方々からの理解促進や連携協力により学校運営の改善を図る。

2. 学校関係者評価委員の構成

学校評価委員は、以下の人員で構成する。

- ・ 関連業界等関係者 5名
- ・ 教育に関し知見を有する者 1名
- ・ 卒業生 1名

3. 学校関係者評価の実施方法

令和8年5月20日（水）

佐賀工業専門学校 多目的室

参加者 委員 7名 事務局 7名

学校関係者評価委員の皆様には、事前に郵送等で配布した報告書並びに本校のホームページ上で公開されている学校情報等で理解を深めていただいたうえで、令和7年度自己点検評価の成果をもとに意見交換を通して得られた意見を取りまとめた。

4. 学校関係者評価委員からの意見並びに特記事項

(1) 教育理念・目標

◆特記事項

- ・ 自動車学科においては、新技術も日進月歩で進化している環境になかにならなくて、これらにも対応できるメカニクを養成することが求められことから関係業界団体並びに職業実践専門課程の特色である企業連携の特色を活かし整備業界からの要望に応えていく。
- ・ エアポートサービス学科においては、年間4千万人の訪日外国人を目指す国策並びに業界団体の要望に応えうる質の高いグランドハンドリングスタッフの養成に取り組む。
- ・ 在学中はもとより、卒業後の社会人として欠かせないコミュニケーション能力の向上など基礎作りにより人間力の育成にも応えていく。
- ・ 学校理念等の周知については、あらゆる機会が発信に努め学校評価アンケートにおいて把握する。なお、周知の確認のためにアンケートの回収率向上を図る。

(2) 学校運営

❖特記事項

- ・教育活動等の公開については、ホームページをはじめSNS等により情報発信を適切に行なう。この際Instagramなどの発信ツールの活用積極的に取り組んでいく。

(3) 教育活動

❖特記事項

- ・教育活動では大きな課題はないと思われる。なお、自動車学科においては、在校生すべてが新教科書での授業となることから、二輪を含めた新機構・技術に対応できるよう研修会等へ積極的に参加し指導力・資質の向上が必要となる。エアポートサービス学科においては、座学と実習のバランスを図り、卒業後に即戦力として活躍できるカリキュラムに心掛ける。

(4) 学習成果

❖特記事項

- ・退学者の防止に向けた取り組みについては、学生の心情把握に努め些細な変化に対して早期対応が重要である。この際、保護者との密接な連携が求められる。
- ・卒業生の活躍などの情報把握は、企業採用担当者等との情報交換時などを利用し収集に努め職員間で共有することが改めて重要である。

(5) 学生支援

❖特記事項

- ・健康管理等については、外部講師による講座により健康管理面のサポートを補う。
- ・課外活動の支援体制は、専門学校九州ブロック体育大会に向けて開催競技に参加する学生に対する支援を万全にする。

(6) 教育環境

❖特記事項

- ・自動車学科は、全員が新教科書による授業のスタートに合わせ、教育内容に沿う教材等の充実が必要となる。
- ・設備面においては、管理棟・学生駐車場周辺に防犯カメラを設置したことで安全意識の向上に繋がった。

*委員からの意見

- ・自動車学科のインターンシップは、離職率の向上にも繋がると思われるため今後も継続できたら良い。また、現状と企業はどのように選定しているか。
(学校から：インターンシップの時間は実習授業時間数の5%以内と定められているため、効果的な職場体験時間を確保し、ミスマッチによる離職率の低減に繋げたい。また、現状は1年生時に2日間で実施している。企業選定は、学生自ら希望企業と受入れについて調

整させている。(調整力の経験も含めて)もちろん、企業への依頼をはじめ、期間中の訪問・体験状況の確認等に合わせ終了後のレポート提出により、その効果を把握し改善に活かしている。)

(自動車学科長より：インターンシップの体験日数については、受入れ企業との調整により期間の延長など、より効果的な日数を確保するよう改善を図る。)

(7) 学生募集

❖特記事項

- ・エアポートサービス学科において、前年度実績を上回る入学生の確保ができなかった。今後も安定した充足率の維持が課題である。募集広報の取り組み方については、情報発信においてInstagram・LINE・TikTokなどのSNS等を活用し、本校の認知と魅力度のアップを図り、オープンキャンパスへの参加者の増加に繋がるように取り組んでいく。
- ・留学生を受け入れに関しては、在留期間の更新の手続き等に遅滞のないように円滑な事務処理により継続した留学生確保のため基礎を確立する。

*委員からの意見

- ・エアポートの入学生が減少しているが空港業界に人気がないのか？また、ほかに理由がありますか？弊社としてできる限りバックアップしていきたい。

(学校から：佐賀の特性と言っているほど業界の仕事について認知が低いと思われることと、福岡のネーミング・都会への憧れに押されている感は歪めない。学校PRの方法にも対策が求められる。なお、佐賀新聞の令和8年正月特版として、グランドハンドリング[本校実習風景在校生のインタビュー並びにANAエアサービス佐賀に勤務する本校卒業生]をトピックして大きく誌面に取り上げていただいた。また、夏休み期間の福岡空港見学会のイベントは、これまで同様にご支援ご協力をお願いいたします。)

*委員からの意見

- ・HPなど有効に活かされていると思います。

(学校から：タイムリーで注目度の高い情報発信に心掛けて取り組んでいく。)

*委員からの意見

- ・学校の認知について、学校名は知っていても場所は知らないなどもあることから、周知方法を検討し改善を図ったらどうか。

(学校から：SNSを活用し、認知向上に向けた新たな取り組みを具現化する。)

(8) 財務

❖特記事項

- ・財務基盤の安定に学生募集の成果が直結することから定員の充足率を追求する。

(9) 法令等の順守

❖特記事項

- ・法令・設置基準の順守並びに自己評価の公開等については、適切に行われている。
- ・問題点の改善は、問題意識と課題を共有し、改善に取り組まなければならない。

*委員からの意見

- ・自己点検評価の基準はどのようになっているのか。

(学校から：文部科学省からの評価項目に沿って、常勤職員において実施している。評価においては、「4段階評価」で同数の場合は、下評価を持って総合評価とし表示している。)

5. 学校関係者評価総括

各評価委員の皆様から賜った貴重な意見や助言を活かすことで、今後のより良い学校づくりに繋がることから、より具体的な改善を図らなければならない。